



電話 0577-35-3533



フ〜ラム

入場無料

先着100名に
プレゼント!

高山も

自然エネルギー利用
日本一のまちにするには

どうするの!?



もたに こうすけ

いとうせいこう × 藻谷浩介

作家・ラッパー

地域活性化伝導師

「高山をみんなの力で自然エネルギー利用日本一のまちにしよう!大作戦」がいよいよ動き出す。高山市民必読の『里山資本主義』の著者・藻谷浩介さんと高山の取組みに興味津々の作家・いとうせいこうさんが、市民に刺激的な提案と熱いメッセージを投げかけてくれるぞ。みんな、しっかり受けとめよう!

2014

1

18

12:00 開場

高山市民文化会館

〈小ホール〉

昭和町1-188-1

Part 1

〈キーノートスピーチ〉

13:00~

里山資本主義と高山エネルギー

藻谷浩介

Part 2

〈フリーディスカッション〉

14:30~

高山を自然エネルギー利用日本一のまちにするにはどうするの!? 会議

いとうせいこう

藻谷浩介

岡田賛三

(ひだ自然エネルギー協議会会長)

おもしろ自然エネ体験コーナー、パネル展示、出店、ライブもお楽しみに!

高山エネルギーに期待する市民の声

高山エネルギーで
日本を変えよう!

岡田さん

つづけることが
大切だね!

森本さん

『里山資本主義』は読みました。
僕ら30代は熱いですよ!

大西さん

【問合せ】

高山市環境政策推進課

電話 0577-35-3533

takayamaenergy.net

高山エネルギー講座 ① 「太陽」

自然エネルギーといえば、まずは、太陽からはじめないわけにはいかないでしょう。みんなの高山エネルギーも、基本は太陽です。

古い古い時代から、太陽は神さまのような存在として、人々から敬われてきました。植物や動物、そして私たち人間が、太陽無しでは一瞬も生きることができないことを、昔の人も知っていたからでしょう。

21世紀の日本・高山でも、太陽は同じように私たちの生命を支え続けてくれています。日々の食べ物である野菜もお肉も、太陽のエネルギーがなければ育ちません。森の木も川の水も大地の土も、太陽がなければ死に絶え、氷の世界になってしまうでしょう。

また私たちの町の暮らしも、太陽が支えています。石油や灯油は、数億年前の植物の化石ですし、灯りや

動力として使っている電気のエネルギーも、元をたどれば太陽のエネルギーなのです。

中でも太陽光発電は、太陽のエネルギーを電気エネルギーに変換できる技術です。屋根に設置して自宅で発電しているご家庭や、空き地を利用して小さな発電所として広がっていることなどはご存知でしょう。「自分で使うエネルギーを、自分でつくる」ために、一番イメージしやすく、導入が容易な一つの選択肢が、この太陽光発電によるエネルギー生産です。

発電した電力を、固定価格で買い取りしてくれる制度が施行され、全国的に爆発的に増えつつあります。売電益による収入も勿論魅力的ですが、なによりも「エネルギーを自分でつくる」くらしが意外と簡単に実現可能なんです。

最初にかかる費用

160万～240万円程度

* 4kw規模の太陽光発電を自宅屋根に設置する場合の目安
* パネル費用、工事費用、諸経費等含め

発電量 及び 売電した場合の金額

概算では10～18年くらいで回収可能

年間発電量

4000～5000 kWh

年間回収金額
(売電+自家消費)

14～18万円程度

* 発電した60%を売電、40%を自宅消費とし、
売電価格38円/Kwh(平成25年度)、自家消費28円/Kwhとした場合



4kw規模の太陽光発電

★ 高山市でも太陽光発電システム導入に助成しています。 **高山市 太陽** **検索** 高山市環境政策推進課 電話 0577-35-3533
★ 来年2月から「高山エネルギー講座」が始まります。1月15日発行の広報たかやま折込の本紙にてご案内します。

世界と日本の新エネルギー探訪 ①

◆ 「自分たちのエネルギーは、自分たちでつくるう！」という動きが、世界中ではじまっています。自然エネルギーの技術がどんどん進み、安価になってきたことや、それを促進する政策や制度が広がっているからです。

◆ 考えてみると、二〇〇年ほど歴史をさかのぼってみれば、どんな町でも生活に必要なエネルギーは、だいたい自分たちでつくっていました。薪は近くの里山から、肥料は糞尿から。余ったものを捨てるなんてもつたないことはせずに、当然リサイクル。昔できたのだから、今でもできるはず！そのために参考になりそうな動きを紹介します。

◆ まずは世界の事例から。

地域住民が自然エネルギー普及に取り組んだ先駆的な事例として、カリフォルニアで一九九三年に実施された「ソーラーパイオニア」という取り組みがありました。これは住民の自宅の屋根を電力会社に提供し、そこに太陽光発電パネルを置いて発電しようというもの。発電した電力は送電線に流れ込み、自宅で使えるわけでもなく、また住民はこのプログラムに参加するために毎月4ドルのお金を支払う必要がありました。自分の家で使うわけでもない発電設備を、お金を払ってまで自宅に設置するなんて！

◆ しかし募集を開始した途端に申し込みが殺到。その後のグリーン電力制度の原形となった事例です。

◆ そして日本でも、意欲的な取り組みが長野県飯田市で続けられています。晴天が多く日照時間が長いという条件の下、飯田市ではH9年から太陽光発電設備の設置支援が市によって行われてきました。そして、地元のNPOや株式会社と協働して、住民の出資による地域の小さな発電所が市内約四〇箇所に誕生。「自分たちのエネルギーを自分たちでつくる」動きが今もつづけられています。



「高山エネルギー」 なのではないですか？

坂本龍一 さん（音楽家／more trees 代表）

「山に囲まれ広々としていて、空気がきれい。交通量も多くなく、ストレスが少なく住めるまちではないか」と高山に好印象の坂本さん。世界的な音楽家として活躍をつづける一方で、森林保全の活動にも熱心に取り組まれています。各界が注目する高山の今回の取組みについて、まずは、教授“こと坂本龍一さんに聞きました。そう、高山エネルギー大作戦は、きっと坂本さん抜きにはありえませんでした。

自然エネルギー利用日本一の都市をめざすという市長の意気込みについてどう思われたでしょう？

「以前（2012年7月）、こちらに伺った際、市長さんからお聞きしました。是非進んでいただきたいです。必要ならもちろん僕もサポートします。

エネルギーの問題に関心をもたれたきっかけは？

「一九九二年の「リオ・サミット」がきっかけで温暖化問題に関心をもちました。温室効果ガスを使いつづけると地球の大気がどんどん温暖化して

いくこと、温室効果ガスの使用を減らし再生可能エネルギーに替えなければいけないことを学びました。また、人類の過去一万年のエネルギーの種類と使用量の変化などにも大きな関心を抱くようになりました。

世界各地を回られています
が、自然エネルギー利用と
いうことで、とくに興味を
もたれた街はありますか？

「数年前にツアーでスペインを回った時、突然地平線の端から端まで風車が立っているのを目にして驚きました。ドイツでは当たり前の風景になつていますが、スペインもそうとは思いませんでした。後で調べたらスペインもドイツを追い越すぐらい自然エネルギーの普及が進んでいるんですね。

また、今年アイスランドに行き、八〇年前からアイスランドでは地熱を利用していると耳にして驚きました。もちろん当初は寒い冬のための熱利用だったわけですが、最近では地熱発電が普及し、電気に関しては一〇〇%自然エネルギーでまかなえるそうです（交通はまだ化石燃料だけのようですが）。早く日本もそうなるってほしいですね。

十年後、日本のエネルギー事情
はどうなっているでしょう？

「電力に関しては、その土地その土地に適したエネルギー源を選ぶ時代になっているでしょう。それも一つに限らず複数組み合わせでエネルギーを得る。そして大型の発電所で大量の電気をつくるのではなく、使うところで、もしくはその近くでつくる、コミュニティや事業所ベースで小さな発電所をたくさんつくりネットワークでつなぐ、そのようになっていると思います。問題は運輸です。バイオマスもある程度は使えますが、温暖化により今後、世界的に食料危機が来ると思いますが、もともと食用だった穀物などをエネルギーのために使うことがいいのか、悩ましいところです。

「貨の導入も有効でしょうか？」
「地域通貨の導入は、なかなか容易ではありません。地域通貨の目指すところ、つまりお金と「つながりのコミュニティ」内での還流ができてしまえば、道具としての地域通貨はなくてもいいと思います。コミュニティがつつたエネルギーを市民が少しずつ負担しつつシェアできるようなことが目的です。もちろん、たとえばICカードのようなものを用いて、自分がつくったエネルギーと使ったエネルギーが確認できて、プラス分を街の商店でもお金として使えるようになる。そういう地域通貨ができれば申し分ありません。

今回の取組みを、さしあたり高山自然エネルギー大作戦と呼んできましたが、自然エネルギーよりも再生可能エネルギーがいいのか、あるいは市民エネルギーなのか。コンセプトに関わる部分ですが、そのあたりはいかがでしょうか？

「高山エネルギーなのではないですか。」

かつて地域通貨を提唱されていたことがありますが、エネルギーを軸にした街づくりをすすめるにあたって地域通貨

ありがとうございます。
★いいですね。「高山エネルギー大作戦」でいきましょう！